

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームのみんなが家族として生活していくことを理念としながら、地域住民と連携・協働をしていくことで、介護事業を推進している様子がうかがえる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域に密着した経営理念のもとに、管理者はもちろんのこと、他の職員もその理念をくみ取りながら実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の組合員として行事に積極的に参加し、ホームの行事にも地域住民が訪れている。地域の方々は隠居に向かうように、そしてホームの利用者も自然に地域に出向きながら共生に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事前の自己評価については、ホーム長や管理者だけの考えではなく、職員すべての意見を取りまとめており、また外部評価の意義も職員すべてが周知している。		

宮崎県都城市高崎町 グループホーム海ちゃんの家たかざき

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、年6回の運営推進会議が開催され、意見交換やホームの事業内容等について報告がなされている。また議事録の中にある委員の意見についてもしんしに受け止め、利用者の支援やホームの運営に生かそうとする前向きさがうかがえる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長と事務局長が主に市町村担当者等と連携を図っており、連絡、報告、相談をきめ細かに行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会の際や電話での報告は、ホーム長、または主任が随時窓口として行っている。また利用者一人ひとりの生活の様子を写真に撮り、疎遠になりがちな遠方の家族に、ホームでの生活状況を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には苦情窓口担当者が記載しており、また行政の連絡先も明示してある。ホームの掲示欄にも同様に明示してあり、家族等の意見は常にしんしに受け止め、職員同士で共有しながら対策についても検討がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員ができるだけ長く勤めることができるように、子育て支援策や勤務ローテーションにも配慮がなされている。特に夜勤体制を2人体制にしていく試みがあり、職員が業務に不安がないようにしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員育成のための研修会や内部研修会を頻繁に実施している。また県内外の研修会に職員は参加しており、復命書での報告もなされている。		研修会での資料やパンフレット等も、職員全員が共有できるようにするとよいのではないか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西地区のグループホーム研修会や、都城市の介護支援専門員連絡協議会の研修会にも積極的に参加し、情報交換や学習を通してホームの支援に還元させる取り組みがある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の訪問面接等でホームの概要等を説明し、また場合によってはホームの見学をしていただいたうえで、入居を決めてもらう手続きがある。また本人だけでなく家族に対しても同様の方法で取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員であっても、利用者の親しんでいる唱歌と一緒に歌ったり、常に寄り添いながら利用者に合わせていくことで、喜怒哀楽を共有している。		利用者を「～ちゃん」という呼び方をしていることについては、親しみをこめて、あるいは同じ家族としてという理念のもとにあっても、利用者に尊敬の気持ちを持つために、また職員の教育のために、基本的な尊厳意識を持った呼び方にさせていただくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活環境や境遇、性格や心身の状態を把握した上で、寄り添いケアに努め、利用者のペースで職員は支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の主訴や意向を介護計画の中で生かすように検討されている。また全職員がカンファレンスの中で課題をあげながら、その課題に沿ったプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿ったケアチェックが毎日なされており、プランの評価も定期的になされながら、介護計画の見直しがなされている。		定期的な介護計画の見直しやケアチェックがされていても、1年～6か月の周期でプランが更新されているので、変更がなくとも更新プランとして、その都度再計画書を作成するとよいのではないかな。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域性をもったホームの運営方針の中で、ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行い、家族にとっても訪問しやすい環境をつくりながらホームの機能を生かす努力がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医は利用者それぞれにおり、ホームと掛かりつけ医との連携も取れている。必要時に応じた受診等の支援もできている。また協力医との連携についても適切に支援に結び付けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの理念が家族の一員としての支援にあることから、本人や家族の希望により終末ケアの中での看取り支援も実践しており、職員の体制もできている。また主治医や協力医との連携も取れている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレは居室ごとに設けてあり、排泄時のプライバシーは守られている。また記録等についても管理が行き届いている。		排泄誘導の際の職員の声のトーンがやや気になるので、さりげない声かけや誘導をしていただけるよう期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームはワンフロアで利用者の生活支援をしており、寄り添いケアができている。また生活のペースはそれぞれであっても、職員が対応できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員全員が利用者と同一メニューを同じ時間に食べながら、傍らで必要なときに介助し、食材の話や世間話を交えながら、和気あいあいと楽しく食事をしている。また必要に応じて食材の買出しや調理も利用者と職員が一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者全員が毎日入浴しており、夜間の入浴希望に対する対応も可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活は利用者のペースで進み、その能力に応じた支援をしている。また利用者ができることをできる範囲内で役割を持たせ、日常生活のサポートを側面的に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日利用者の外出ドライブを実施しており、買い物支援も含めて、外に出ることを社会的支援としている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はもちろん、居室からサンデッキにも自由に出入れるようにオープンにしてある。職員は、利用者の行動には常に目配り気配りができている。		

宮崎県都城市高崎町 グループホーム海ちゃんの家たかざき

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	避難訓練計画を立てて、訓練を定期的に行っている。また訓練後の反省評価も含めた記録もある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は利用者のそしゃくや嚥下力に応じて対応されている。また一日のカロリーを決めた上で、利用者の体の状態に合わせた栄養摂取の支援になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間がワンホールになっており、死角がなく、職員の目配りもしやすい。構造上の問題ではあるが、ホールはやや暗い感じを受けた。また居室に入らない利用者の家具等がホールに出されており、利用者の移動の動線の面からも問題が感じられた。	○	ホールにはさまざまなものが貼られており、雑然とした感じも受ける。利用者が安全でゆったりと暮らせるよう、貼り物、飾り物、置物など整理して落ち着いた移動しやすい共用空間づくりをさらに工夫してほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者に応じてベッドの工夫がなされ、たんすや生活用具用品も使い慣れた物が持ち込んであった。また時の確認ができるように、カレンダーや時計も置いてある。		

※  は、重点項目。